



覚満淵通信

赤城山の自然保護活動

推進協議会

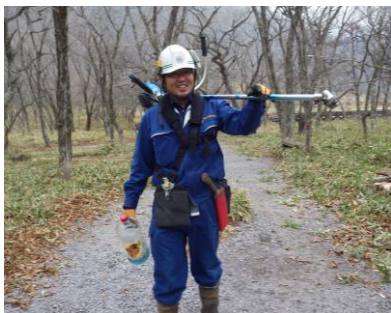
第 8 号

2016年3月12日発行

第8回ササ刈り活動報告

氷点下の気温が続く赤城山覚満淵は、厚い雪に閉ざされて、夏とはうってかわった静寂さをかもし出しています。良く見れば覚満淵の周囲のところどころに大きな足跡を見つけることができますが、それは、最近流行りのスノーシューによって付けられた足跡でした。遠くにはスノートレッキングを楽しむ賑やかな声が聞こえました。雪の下で春が来るのをじっと耐える草花を想像しながら、ササ刈り活動の成果が実を結び、今年も多くの花々が覚満淵に咲くことを想像しています。

昨年開催された覚満淵のササ刈りは、安全確保のため、初めて工程を2日間に別けて実施されました。11月7日は39名の参加者により、刈り払い機を使用したササ等の刈り払いを実施しました。翌8日は147名の参加者により、手鎌による刈り取りと、刈り取った草の搬出をおこないました。8日は生憎の小雨の中の作業となりましたが、多くの方のご協力をいただき、無事に完了することができました。



11月7日集合写真



11月8日集合写真

その他の作業報告

防鹿柵保守作業 報告者：泉川斌（ぐんま森林インストラクター会）

昨年6月よりシカ柵の点検補修をぐんま森林インストラクターが担当しました。5月の柵上げから1月の柵おろしまでの間、27回の点検及び補修を延べ88名で行いました。その間に、柵内で5回もシカを目撃しています。修理しても修理しても柵内に入ってくるシカ。同じシカが入ってきているのではないかと推測されますが、かなりしつこいやつです。ただし、入り口の開けっ放しも確認されており、人間側にも問題があるようです。覚満淵の草花は以前よりも増えているように思います。柵の効果が出ているとは思いますが、実際にシカが侵入しているため、来年度もまたシカとの戦いが想定されます。



食いちぎられたネット



開けっ放しの入り口

柵おろし作業 報告者：春山明子（株群馬野生動物事務所）

例年になく遅い根雪になった覚満淵は、1月27日に地元の住民10名と有志4名が集まり、防鹿柵を積雪による倒壊から防ぐための柵おろし作業をおこないました。積雪60cmの中、雪をラッセルして、柵をおろす作業はかなりの体力を要しますが、柵の維持管理には欠かせない作業です。再び春に柵を上げる作業をおこなう必要がありますので、春の作業にもご協力をお願い致します。



杭交換作業 報告者：坂庭浩之（群馬県林業試験場）

ぐんま緑の県民基金の支援を受け、老朽化した杭の交換作業をおこないました。覚満淵は県内外から多くの方が訪れる観光スポットです。遊歩道の脇には杭とロープによる柵が設置されていますが、根元付近が腐朽し自立していないものもたくさん見受けられました。

そのため、ササ刈り作業に合わせ別チームを組んで杭の交換作業をおこないました。わずか13本の交換ですが真新しい杭と真っ白なロープが新調されると、その場所の雰囲気も変わります。

覚満淵の保全活動が植生管理から利用環境の維持へ新たな一步を踏み出しました。多くの観光客が訪れる場所でもあり、綺麗な環境を整えておくことは、もてなしのひとつです。



作成者：泉川斌（ぐんま森林インストラクター会）坂庭浩之（群馬県林業試験場）

春山明子（株群馬野生動物事務所） 発行元：NPO 法人赤城自然塾

表題の写真：クガイソウ（長いブラシのような花は覚満淵の中でも目立つ存在です）